

承認	議長	副議長	事務局長	総括参事	合議	担当
					 	

様式第1号

令和5年10月10日

真庭市議会

議長 小田 康文 様

真庭市議会議員 福島 一則 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

富山県富山市新総曲輪4-18

富山県民会館

3 内 容

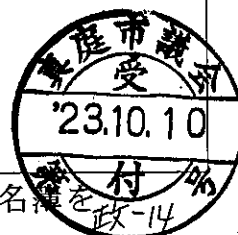
全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま
全大会及び分科会に参加

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を



行程表（令和5年10月26日、27日）

日付	時刻	分類	内容	備考
10/26	5:00	移動 (自動車)	久世本庁→久世IC→富山IC	米子道、中国道 舞鶴若狭道、北陸道
	13:00	研修会	全国過疎問題シンポジウム 2023inとやま	富山県民会館 富山県富山市新総曲 輪4-18 TEL: 076-432-3111
	18:00	宿泊	ホテルパークイン富山	富山市桜町2丁目6-7 TEL: 076-441-8900
10/27	8:00	研修会	第3分科会（南砺市）	南砺市井波総合文化 センター 富山県南砺市山見 1400 TEL: 0763-82-5885
	14:00	移動 (自動車)	富山IC→久世IC→久世本庁	北陸道、舞鶴若狭道 中国道、米子道

参加議員名簿

日にち：令和5年10月26日、27日

No.	名 前	会 派 名	備考
1	ふくしま 福島 かずのり 一則	ひろく 拓	代表者
2	にしだ 西田 ふみこ 文子	りよく 緑 しん 真 かい 会	
3	もりわき 森脇 まさかず 正和	りよく 緑 しん 真 かい 会	

令和5年 10月30日

報告者 真庭市議会議員 氏名 福島 一 則

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたのでその結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和5年10月26日 (午前・午後) 5時00 分 至 令和5年10月27日 (午前・午後) 12 時00 分 (正午)
2	場 所	富山県富山市新総曲輪4-18 富山県民会館
3	用 件	過疎対策についての取組を聞き真庭市で参考になる事例が多くあったが、どこの団体等も支援がある場合は維持出来るが 支援が無くなれば維持が難しくなる。 地域経済が活性化しなければ、地域社会は衰退していく 都市部から地方へ移住に関心を持って頂けるようにする為には、田舎でも生活が出来るような仕組みを作らなければならない、 自治体もただ補助金を出すだけではいけない、自立出来るようにしていくべきだ。

参加者 福島一則、森脇正和、西田文子





副議長



局長



係長



係



回覧



様式第2号

報 告 書

令和5年 10月 31日

真庭市議会議長 小田康文 様

報告者 真庭市議会議員 氏名 西田文子 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会→要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 令和5年10月26日(午前・午後) 5時00分 至 令和5年10月27日(午前・午後) 12時00分
2 場 所	富山県富山市新総曲輪4-18 富山県民会館 富山県南砺市山見1400 南砺市井波総合文化センター
3 用 件	全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま 全大会：開会式・表彰式・基調講演・パネルディスカッション 分科会：第3分科会 南砺市
4 概 要	令和5年度過疎地域持続的発展優良事例表彰で8団体の 取組に対しての審査講評を伺い、今までの取組にはないデジタルを活用した物 や、地域交通や特産品作りなど私たちの市でも取組んでいるが、注目される ほどの活動に届いていないだけだと思った。 基調講演では、富山県生まれ早稲田大学名誉教授の宮口何廸氏による過疎地 域の使命と題し、半世紀前に過疎法が生まれてからの歩みや日本の目標は豊な



報告書（継紙）

少数社会で、人と人が支え合っている状態を作ることが幸福感のある地域生活がこの国の価値を高めるという話を聞き、地方に住む私たちがこの日本を守っていくのだと勇気をもらった。

パネルディスカッションでは、ウェルビーイング先進地域と題してパネリスト4人とコーディネーターの指出氏の問いかけ、多様な人材をどう呼び込むか外部人材は必要かに対し、外の人が地元の良さを気づき、外の人に褒められることが活動の原動力になる。また、やる気のある人を4～5人集めると周りのリーダー的ではない人を巻き込める。他には、ずっと住む人でなくても、移住してきた人の伴走者となり、他の地域に移住しても応援し続けることが大切。外から来た人が次に移住して来る人の地域との接着剤となる人となることが大切。外から来る人が起爆剤となったり、変化を起こすことになる。滞った空気に風を入れ循環する。日本人は外のことを取り入れてオリジナリティーを作っていく。運営側に若者や移住者を入れるとイベントの来場者もそういった人が来てくれる。40代の方は若者や中高年の両方に関わる世代になる。パネリストの方は全国あちこちの町に呼ばれてその地域の良さを見つけ町おこしの素材を提供している。私たちの地域も頑張っているところは沢山ある。今までやってきたことを持続させるか、変化させるか、それがどんな結果になるか難しい選択だと思う。

27日の分科会には諸事情で参加できなかった。



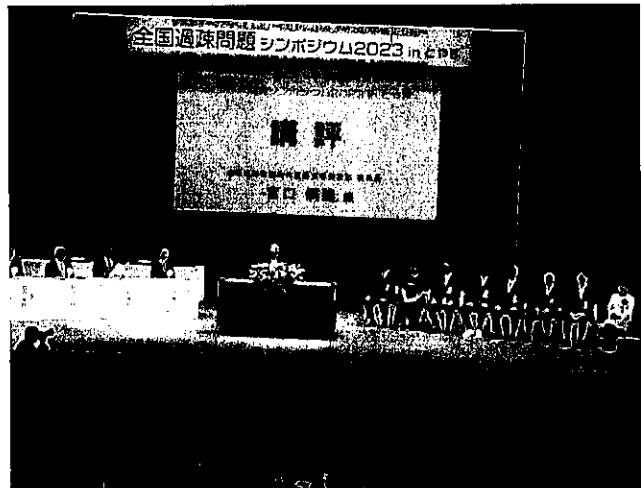
会場前



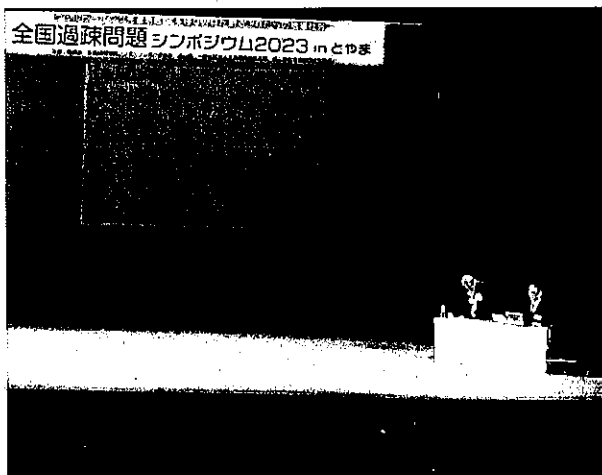
開会式 主催者挨拶 鈴木総務大臣



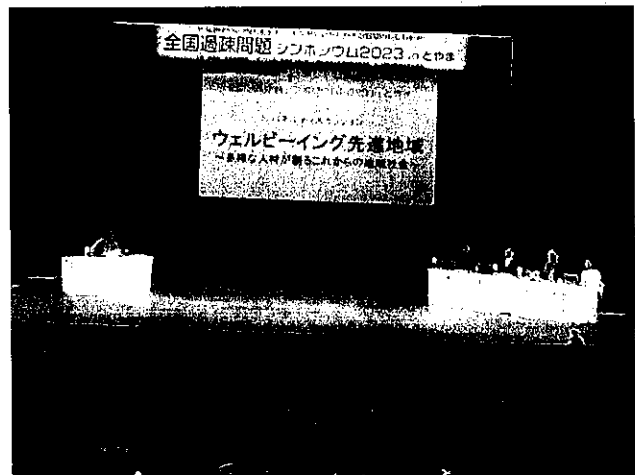
歓迎挨拶 新田富山県知事



表彰式8団体 講評 宮口表彰委員長



基調講演 早稲田大学名誉教授 宮口氏



パネルディスカッション

議長 副議長 局長 係長 係 回 覧



様式第2号

報 告 書

令和5年 10 月 30 日

真庭市議会議長 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 森 脇 正 和



下記のとおり政務活動費を使用して 研修会活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 5年10月26日(午前) 5時00分 至 5年10月27日(午前) 12時00分
2	場 所	① 富山県富山市新総曲輪4-18 富山県民会館 ② 富山県南砺市山見1400 南砺市井波総合文化センター _____ _____ _____ _____ _____
3	用 件	① 全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま ② 第3分科会 _____ _____ _____ _____



4 概 要

① 基調講演「過疎地域の使命」講師早稲田大学名誉教授 宮口 トシミチ氏

富山県でのシンポジウム開催意義は、富山は大都市圏を除けば最も過疎地域の少ない県である。売薬資本の水力発電により大正期から大企業の工場誘致に成功、工業団地方式でも先進県。第2次産業従事者比率は1位を堅持している。やはり働く場、生活しやすい環境が必要であることを痛感した。過疎法は、国際目標のSDGsの思想に合致している。今後は人口減少が進むがそれを嘆くのではなく、少数の人間が広大な空間と資源を活用する豊かな少数社会を目指すべきである。少数社会では人と人が支えあっている状況をつくるのが可能。パワーとスキルを持つ人の参入で新しいしくみの創出が可能。

過疎地域で幸福感のある地域生活をつくるのがこの国の価値を高めることになる。地産地消を軸に豊かな経済循環をつくり出すことを目指し起業だけでなく継業にも価値を見出せば人材が場を得れば蛮勇をふるって成功することも多い。過疎地域の使命は、経済成長・効率化の時代に条件不利地域として出現。国の支援もあり土地に密着した暮らしをなんとか維持してきた。そこでは、豊かな自然が保たれている。過疎地域は、少しの支援で生き抜いてきた地域、過疎地域が豊かな少数社会に置き換わるのが国への最大の貢献である。

パネルディスカッション「ウェルビーイング先進地域～多様な人材が創るこれからの地域社会～」コーディネーター指出一正、パネリスト藤田とし子・金子知也・島田優平・佐藤みどり

指出氏の進行で、まず、移住者が活躍できるには、どのようなことが必要か？の間に、場所づくり、地域住民の無関心ごとに関心ごとに変えていくことが必要である。外から来る人は必要か？の間に、外から見る景色は、そこに住む人との見え方が違うので必要、変化を起こす人は、外部の人が多。しがらみがないのが強みとの意見。関係人口を維持して増やすには？の間に、人と人とのつながりが非常に重要との意見。その世代を広げていくには？の間に、継承ではなく新しい事をやっていく。世代をつなげる人材が必要との意見。

基調講演、パネルディスカッションを聞いて感じたことは、働く場所、生活が安心して送れることが人口流出を止める一番の要因と感じた。外部の人は、そこに住む人に新た

な気づきを与えてくれる。人とのつながりは非常に大切なことを痛感した。真庭市においても、地域協力隊が活動を通して以後残っていただけることを願います。

②第3分科会参加予定していたが、都合によりキャンセルしました。

